

第 79 回 IEEJ エネルギーセミナー開催報告

本報告は、上記シンポジウムの議論の内容を(一財)日本エネルギー経済研究所の文責でまとめたものです。内容の全て又は一部を無断複写・複製・転載・譲渡することを禁止します。

2015 年 3 月 4 日、日本エネルギー経済研究所において、「ロシアの 2014 年以降のガス輸出政策の変化 (Russian Gas Export Policy - Asia, LNG, Europe: fundamental change post-2014?)」の報告会を開催した。オックスフォード・エネルギー研究所ジョナサン・スターン教授 (Professor Jonathan Stern) に講演していただく場として開催し、100 名近い参加者が集まった。

主な内容は以下のとおり:

1 年前、ロシアと Gazprom は、Shtokman プロジェクトの棚上げが過去にあったものの、多数のガス輸出オプションを持っているように見えた。この 1 年間で大きな変化をもたらした。プーチン氏に近い Novatek、Rosneft トップ等の個人、銀行、エネルギー企業に対する制裁 (Gazprom、Novatek は米国に制裁されているが、欧州連合 (EU) の制裁は受けていない)、石油部門の技術制裁が、ガス部門にも影響を及ぼしている。

ガス部門に直接制裁はないが、Novatek、Gazprom の資金調達に制限されている。Novatek の Yamal LNG、Gazprom の諸プロジェクトに米ドル建て資金調達が利用できない。間接的影響として、EU が Gazprom との交渉を拒絶していることがあり、これは South Stream 中止につながり、Gazprom は欧州下流部門投資から撤退するという戦略転換につながった。

Gazprom はサンクトペテルブルグ近くの比較的小規模な Baltic LNG プロジェクトに楽観視しているが、2018 年という目標は実現できない。Rosneft は Pechora LNG について Alltech 社と提携しているが、当面進展は望めない。Baltic LNG は国産ガス供給に基づきコスト競争力が期待されることから、当面注視はすべきだろう。

唯一可能性ある新規プロジェクトは Yamal LNG で、3 系列・年間 1650 万トンプロジェクトが 2017 年までに稼働開始するとしている。長期販売契約が Gas Natural、Gazprom、Total、中国石油集団 (CNPC) との間にある。270 億米ドルの資金調達が最大の問題だが、作業はかなり進んでいる。既に 80 億米ドルが投資され、2015 年予算も 80 億米ドルとなっている。米ドル建て資金調達が利用できないことから、為替が大きな問題である。

中国側が資金捻出に合意したとのことだが、資金調達取引は明らかにされていない。この面の進展がなければ、同プロジェクトは 1 年遅延して 2018 年となる可能性がある。第 3 系列に関しては資機材も発注されておらず、疑問である。

1 年前、アジア向けロシアのガス輸出には 2 つのシナリオがあった。パイプライン販売は税収を多く産むことから、より重要と考えられる。

過去 1 年間の諸問題、制裁で全ての LNG 輸出プロジェクトは疑問となった。延期される最初の案件は Vladivostok LNG で、Alexei Miller 氏がそう述べた。逆転するためには潜在買主達が数量を予約しなくてはならないが、制裁の中でその可能性はない。Power of Siberia パイプラインはブラゴヴェシチェンスクで止まる可能性がある。

Sakhalin 2 第 3 系列可能性はあるが、制裁下で Gazprom から長期購入ガスを増やす買主はいない。Gazprom の Sakhalin 3 がガス供給源となる可能性があるが、石油が発見されたことで、まず石油を生産しなくてはならない。同社は他の投資家向けにエクイティーをオファーすることにも消極的である。

Rosneft の Far East LNG が進展することは不可能である。買主達と基本合意が締結されているが、Rosneft は ExxonMobil の参加が制裁により阻止されている中で同プロジェクトを進めることができない。Rosneft はパイプラインへのアクセス問題で控訴しているが、解決には何年もかかる。

Gazprom には中国向けにガスを販売する強い関心があり、原油価格低下が戦略面でパイプライン焦点へと変化をもたらした。Power of Siberia パイプライン計画に沿っての大型パイプライン取引が遂に成立した。年間 380 億 m³ 供給が 2019 年頃開始されることとなる。10 年近くの交渉の末、大きなステップとなる。価格は公表されていないが、当時 Miller 氏は取引総額を 4000 億米ドルと語っており、原油価格 1 バレル 100 米ドルの際、100 万 Btu 当たり 10 - 11 米ドルの価格帯になる。

Gazprom は既にパイプを発注し、建設を開始している。その後まもなく Gazprom は西側経路について CNPC と話し合いに入った。ロシア側は最初に西側経路に着手したかったが、中国側が東側経路を主張した。交渉は現在進行中で、2015 年中に契約が締結される可能性もある。

これらのパイプラインについては、Gazprom はパイプを輸入する意図がなく、ロシアルーブル建てで計算され、難しい問題が残る。原油価格 1 バレル 60 米ドルではプロジェクトの経済性が成り立たないが、1 米ドル 60 ロシアルーブルのレートなら、同 30 ロシアルーブルの場合と比較して、米ドルでのコストは遥かに安価になる。将来は再度ロシアルーブル高もあり得る。

欧州買主達との既存契約で、テイクオアペイ引き取り義務レベルが 70% でも、2020 年代半ばまで年間 1000 億 m³ 以上が欧州向けに販売されることとなる。2014 年の欧州向け販売は、価格競争力により、2009 - 2012 年の水準に落ち込んだ。

2014 年には重要な事象があった。Gazprom は 8 - 12 月、ウクライナへの逆送を防ぎ、ハブ価格を支え、買主達が操作することを防ぐため、ノミネーション量に対応しなかった。しかしこれは上手く機能せず、放棄された。ポーランドの会社が依然本件で不服を申し立てている。

Gazprom はほぼ全買主と再交渉が長引いている。基準価格下げと割戻により、競争力ある価格につながっている。2009 年 Gazprom 価格は NBP より 60% 高かった。2013 年はほぼ同水準で、Gazprom にとっては記録的な年となった。2014 年ハブ価格崩壊で再び Gazprom 価格が NBP 価格よりも 15% 高くなり、同社はまた市場シェアを失った。

諸仲裁手続きの中で Gazprom 最大の顧客 E.ON との手続きが最も重要で、その結果を他買主達が待っている。最新の手続きは 2014 年 7 月に開始された。

欧州競争当局 DG COMP による Gazprom のバルティック諸国、ブルガリア、そしてもう 1 ヶ国を対象にした捜査がまもなく原油連動価格を反競争的と公式に判断する可能性がある。これはガス企業の法務担当者にとっては重要かもしれないが、Gazprom は欧州司法裁判所に上訴する可能性が高い (EU 企業は DG COMP 判断を上訴できないが、非 EU 企業はできる)。同法廷で解決するには数年間要する。解決すると思われる 2018 年には、ハブ価格が地位を確立していると思われ、この問題が最早重要でなくなる。

原油価格下落で長期契約価格がハブ価格に接近するが、2015 年第 3 四半期になる。

Gazprom ・ドイツ BASF 間で資産スワップ取引が断念されたが Gazprom が欧州下流部門から手を引く意図を示唆する。Nord Stream パイプラインが、最初の 2 本の次に、さら

に 2 本拡張する計画は、EC による陸上接続パイプライン ((NEL、 OPAL) に対する規制上の問題で断念された。

2014 年 12 月、Gazprom は South Stream パイプライン計画中止、代替する Turkish Stream パイプライン計画を、4 本のパイプで合計年間 630 億 m³ 容量として明らかにした。

Turkish Stream の 1 本目はイスタンブール地域に、2016 年までに供給開始する。発表によると他 3 本は 2020 年までにギリシャ国境まで延伸する。トルコへの最後の区間の海底調査実施後 2017 年までに最初のラインを敷設することは可能ながら、2 年弱で実施するのは厳しい。日程が遅れたとしても驚くべきことではない。

2 本目は Trans-Balkan パイプラインの流れを逆転することとなる。問題は 3 - 4 本目にある。何故ギリシャ国境まで行く必要があるのか。3 本目は Shah Deniz 第 2 段階ガスが供給されると予想される TAP パイプラインに注入できる。その場合 Gazprom は TAP 連合に容量を年間 120 - 150 億 m³ 拡張することを要請する可能性がある。但しそこには TAP は 2019 年あるいは 2021 年稼働であり、また大量のガスがイタリアの需要の多い北部でなく、南イタリアに上陸することとなる。

ギリシャハブはお断り、ロシア・ウクライナ国境での引き渡しを希望する買主もあるかも知れない。その他の問題として、Gazprom が Turkish Stream 容量のどれだけを、いかに迅速に合意・建設できるかという問題がある。ギリシャでは、ギリシャのハブという考えを誰も知らない。ウクライナ通過輸送を 2020 年までに廃するという考えは現実的でない。

制裁でロシアのガス輸出政策変更を余儀なくされたが、皮肉ながらそれらは遥かに論理的でよいものとなっている。それは欧州下流から撤退し直接販売に焦点を置くこと、中国・アジアを最重要拡張市場として焦点を置くこと、LNG でなくパイプライン輸出に焦点を置くこと・Yamal LNG が唯一の新規 LNG プロジェクトとなる、欧州では第 2 の重要市場トルコに焦点を置くことである。今日の状況は 1 年前と大きく異なる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp